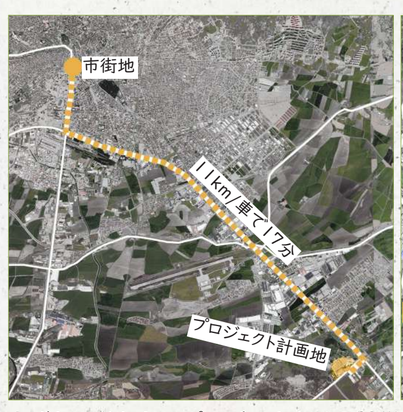
2023-2024

Oda Project

トルコ・シリア地震 - コンテナ仮設団地における「集い の場」のデザイン -

トルコは２月６日、マグニチュード 7.7 と 7.6 の２つの壊滅的な地震に見舞われた。これらの震災は 11 の都市とそこに住む 1,400 万人以上の人々に深刻な被害を与えた。約 150 万人の人々が家を失い、災害公営住宅が完成するまでコンテナハウスでの暮らしを余儀なくされた。私たちは被災地を訪れ、仮設団地のニーズを調査した。その状況と現地のニーズを知り、私たちは地震の震源地であるカフラマンマラシュにあるコンテナシティで、仮設住宅での暮らしの質を向上させることを目的としたプロジェクトを立ち



上げた。私たちのプロジェクトは、被災者に必要な支援を提供し、コミュニティの意識を育むことを目的とした一時的な「集いの場」の建設である。

Project area

地元の内務省災害緊急事態対策庁（AFAD）から提供されたプロジェクト計画地は、カフラマンマラシュのカラカスコンテナシティであった。ここには 1450 戸のコンテナハウスと 5589 人の住民が暮らしている。私たちは、このコンテナシティの中で小学校のすぐ向かい側で、コンテナハウスに隣接している敷地を選んだ。コンテナシティの人口の 40%は子どもたちのため、子どもたちがアクセスしやすく、自然の中で一緒に過ごせる場所が最適であると考えた。

Life in project area

コンテナハウスの１ユニットは 21 平方メートルで、単身者用から６人家族までそこに暮らしている。そのため、人々はコンテナシティの路上で近所の人たちと過ごすことが多い。そのため通りは活気に満ちている。コンテナハウスの中には近所の人たちと交流するための十分なスペースがないため、人々は家の前に机や椅子を並べておしゃべりをしたり、ご飯を食べたりしている。「オダ」プロジェクトは、この重要なニーズに応えるべく、コンテナシティの住民のための新しい多

Design

この建物の構造デザインは、４つのフレームが梁でつながれた木造フレーム構造を特徴としている。木造のフレームは意図的にシンプルにすることで、学生でも加工・組み立てが容易になるように設計した。木材が主な材料として使用され、スチールのコンテナハウスの中で何年も過ごさなければならない人々に温かみのある広々とした環境を提供したいと考えた。
トルコでは、「チャルダック」と呼ばれる空間が集いの場としてよく使われる。これは、公園や自然の中にある開放的な東屋のようなものである。また、日本らしさから「掘りごたつ」をデザインに取り入れ、皆でテーブルを囲む楽しさを提供する。またこの集会所には、キッチン、靴棚ベンチ、椅子、縁側もある。両側のファサードのドアを開けることで半開放的なエリアに変えることができ、開放された縁側は、自然の景色を楽しむための特等席となる。

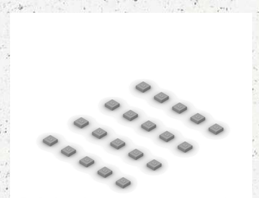
集会所は日本とトルコの建築要素からヒント得た。チャルダックはトルコの公園や自然の中にある東屋のことである。

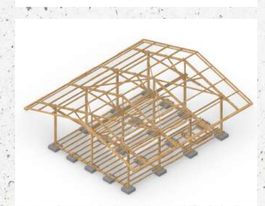
Project construction

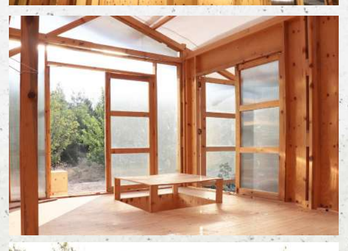
私たち３人のプロジェクトチームは実際にトルコに行き、大工のサポートを受けながらコンテナシティで約１カ月半を建設作業にあたった。トルコで材料と工具を購入し、近くの木材加工場を借りて自分たちで木材の洗浄、墨付け、切断を行った。作業を効率化するために下部の梁（120x140mm）を除き、すべての部材の断面は 40x90mm で設計した。木材の洗浄と切断を行っている間、私たちは同時に４つのフレームと土台を作っていった。
フレーム完成後、私たちは各フレームの連結に取り組み、軸組の構造体を完成させた。次にファサードと床の施工に取り掛かり、そのファサードには合板とポリカーボネートを使用した。ファサードが完成した後、木製の床材が施工され、いよいよ完成に近づいていった。屋根材はトラブルで到着が遅れたため、最後に取り付けられたがその間キッチン、掘りごたつ、いす、棚、下駄箱、キャットハウスなどの家具も自分たちで製作した。そしてついにたくさんの人たちに想いを乗せた建物は完成した。

Special thanks

建物が完成するまで地元の大学から昼食の支援や現場の準備、木材加工場の利用など本当にたくさんの支援を受けました。またカフラマンマラシュ AFAD の管理者は、私たちの寮での滞在もサポートしてくれました。コンテナシティの人々や子供たちはボランティアで建設に参加してくれたこともとても嬉しかったです。私たちは懸命に働き、共に楽しい時間を楽しみました！日本での準備からトルコでの建設まで本当にたくさんの方々に支えられてきました。心から皆さんに感謝しています。この集会所は、9 月のオープンに向けてコンテナシティの管理者によって準備が進められています！







集会所の名前は「和の家」としました。これはコンテナシティの子どもたちが日本らしい名前として考えてくれました！

Mock.Up Process

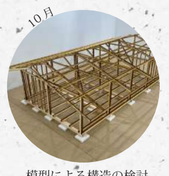
コンテナシティを訪問

初めのスタディ案

コンテナシティに建設するためにデザインコンセプトを申請

大学の文化祭でクラウドファンディングとプロジェクトの宣伝活動

クラウドファンディングは目標金額達成率 172%で 432 万円を達成



模型による構造の検討 1/30

材料の購入

墨付け

加工

組み立て

1つ目のフレームユニット

2つのユニットを繋ぐ

モックアップ完成！

建物の大きさと再検討

2023年2月6日
大地震発生

- 3月
- 4月
- 5月
  トルコを支援することを決め、プロジェクト計画と調査を開始
- 6月
- 7月
  被災地の状況が安定した後、震源地と周辺の４つのコンテナシティを訪問
- 8月
  コンテナシティのニーズを調査し、デザインを開始
- 9月
  資金を集めるためにクラウドファンディングサイトを立ち上げた
- 10月
  プロジェクトの最初のデザインを発表。寄付金の募集活動も開
- 11月
  クラウドファンディングを開始
  開設期間：11/22～12/22
- 12月
  クラウドファンディングを終え、被災地の状況と予算を考慮してプロジェクトの再検討
- 2024年1月
  構造・施工方法の確認のため 1/1 スケールのモックアップを製作
- 2月
  モックアップによって分かった改善点をもとにデザインを再検討
- 3月
  建物のデザインが決定し、プロジェクトリーダーはトルコへ渡り、プロジェクト計画地の視察、大工との打ち合わせ、材料のチェック
- 4月
  現地の材料や予算から建物の規模が見直され、建設前の最終調整をおこなう
- 5月13日
  現地の材料や予算から建物の規模が見直され、建設前の最終調整をおこなう
- 6月
- 7月20日
  「和の家」完成！
- 8月
- 9月
  「和の家」オープン！

Construction Process

敷地を整備

材料を選ぶ

木材の到着

木材のクリーニングと加工

基礎の打設

コンクリートの基礎が完成

部材の組み立て

1つ目のフレーム完成

4つのフレームが完成

子供たちと一緒に作る

4つのフレームが梁で繋がれる

Odaプロジェクトについて小学校で説明会

外壁の構造

子供たちと一緒に作る

外壁

床

大工さんと住民の方々と掘りごたつを囲んで一緒に晩ごはん

コンテナシティに住む方と一緒にお昼ごはん

屋根を張る

家具の製作

「和の家」完成！